

## 編集後記

大学のリポジトリで、研究論集の目次を眺めてみた。最も古いものは1954年の『相愛女子短期大学研究論集』である。巻末に開講科目と担当者が学科（国文科・家政科・音楽科）別に載っているのが時代を感じさせる。研修旅行の報告や教員の外遊が記されている年もある。刊行は年に一回から二回、発行の時期も一定しない。音楽科が相愛女子大学音楽学部となって、「相愛女子大学相愛女子短期大学研究論集」と改名し、やがて「国文・家政学科編」と「音楽学部編」に分かれ、こまかな変更が積み重なって現在に至る。基本的な名称は変わらないものの、内容は意外な幅の広さを示す。

1983年の「相愛大学相愛女子短期大学研究論集 音楽学部編 30」は、11本の原稿を収める。音楽系と一般教育の教員しか書き手はいないにかかわらず、なかなかのものである。音楽祭に参加した報告なども混在していて純然たる論文ばかりではないが、この号と、その前号にオペラの対訳が連載されているのが目を引く。査読を通過した、いわゆる論文だけが学術に寄与するわけではない。質を維持することと多様な活動の基盤となること、両方を追いかけて模索するほかない。

(千葉)

### 論集編集委員会

松本直祐樹（音楽学部）

鈴木徳男（人文学部）

岩口撰子（人間発達学部）

千葉真也（共通教育センター・編集代表）

太田美穂（総合研究センター長）

---

平成27年3月10日 印刷  
平成27年3月18日 発行

第31巻（通巻第66巻）

編集 相愛大学研究論集編集委員会

発行 相愛大学総合研究センター  
大阪市住之江区南港中4丁目4番1  
電話 (06) 6612-5904番

印刷 協和印刷株式会社  
京都市右京区西院清水町13  
電話 (075) 312-4010番

---